

下水道管に雨水が流れ込まないようにしましょう

園施設工務課 ☎(582)1128 ☎(582)5780

全国的に近年多発している集中豪雨などにより、雨水が下水道管に浸入し、マンホールから溢水するなど、さまざまな被害が報告されています。

「雨水の下水道管への浸入」を未然に防止するため、家庭に設置されている排水管に誤って雨水を排水する管が接続されていないかを点検する必要があります。皆さまの取り組みが汚水量の削減につながります。ぜひ、ご協力ください。

●点検箇所について

- 雨水を流す雨樋などの排水設備が、誤って「下水道管」につながっていないか。
- 個人管理部分における汚水ますの破損などがないか(雨水が浸入する原因となります)。

●雨水の混入がもたらす悪影響

下水道の使用不可、下水道使用料の値上げなど



佐川美術館
アートコラム④

芸術の都・パリを彩る文化

佐川美術館
学芸員・藤井康憲

1970年に日本で初めて開催された万国博覧会(万博)。その55年後の2025年に再び大阪で開催されることは周知の通りですが、その始まりは今から200年以上も前の1798年、フランス革命の時期に開催されたパリの産業博覧会でした。日本が公式に参加したのは江戸時代末期の1867年に開催された第2回パリ万博で、現在放送中の大河ドラマでも取り上げられたのをご覧になった人も多いのではないのでしょうか。

19世紀の後半以降、産業革命によりヨーロッパでは工業が発展を遂げ、経済成長も著しく、相次いで高層建築が建てられるようになりました。パリでは度々万博が開催されており、今やパリの象徴とされるエッフェル塔が建てられたのも、1889年に第4回パリ万博が開催された時のことです。カフェやレストラン、ダンスホールなど優雅なパリの文化が開き、万博の開催により街の近代化が進むとともに、パリは「芸術の都」としての地位を確立したのです。

この時期のフランス美術界では「印象派」をはじめとするさまざまな芸術運動が展開され、フランス近代絵画が世界の絵画史上、画期を迎えます。パリで活躍した画家たちは、街で暮らす人々の伸びやかな暮らしをキャンバスに描き続けました。現在開催中の「スイス プチ・パレ美術館展 ―珠玉のフランス近代絵画―」(11月7日(日)まで)では、芸術の都を彩った色彩豊かな世界をご覧いただけます。

芸術のもつ素晴らしさをより多くの人々で分かち合う
展覧会の原点が近代化を遂げたパリの街にあったのです。

※開館情報につきましては、ホームページでご確認いただくか電話☎(585)7800)でお問い合わせください。